

3 南薩地域の畑作物生産の安定と稼げる経営の確立

成果の要約

- 1 各市と連携し基腐病の周知・研修会を行い、昨年より被害が軽減された。
- 2 新たな農薬体系防除により、農家への技術の周知が確認できた。
- 3 青果用の品種比較により、抵抗性品種「栗かぐや」「あまはづき」が有望品種となった。
- 4 経営・生産管理システムを利用した技術指導が施肥改善対策につながられた。
- 5 ドローンの有効活用や可給態チッソ分析を利用した施肥改善に取り組み、生産性向上対策の取組が進んだ。

1 対象

- (1) 各市基腐病対策ワーキンググループ
- (2) 各市町のさつまいも部会、農家
- (3) 大規模野菜法人、農家

2 課題を取り上げた理由

- (1) 平成 30 年度からサツマイモ基腐病が発生し、基腐病対策を周知・指導しており収量は回復基調だが、基腐病発生以前の単収には戻っておらず、農家によって対策に差があるため、徹底した周知が必要である。
- (2) 基腐病軽減対策として、露地野菜との輪作が進んでいるが、法人等はほ場数が多く、点在しているため、ほ場や栽培の管理に課題がある。

3 活動の内容及び成果

- (1) 基腐病対策の実践支援
各市ワーキンググループ（以下 WG）と連携し、定点ほ場を各市に設けて、WG 毎に共同巡回調査を行った。
基腐病防除対策技術の啓発（写真 1）を行い、新農薬や抵抗性品種「みちしずく」を導入する生産者が増え、基腐病の市報告の発生割合が 21.7%（R5）→17.5%（R6）まで低減。



写真 1 基腐病対策研修会（枕崎市）

- (2) 新たな基腐病総合防除対策導入支援

南さつま市、南九州市でフリント FL+フロンサイド SC の体系防除実証ほを設置した。実証農家のからは、達観で見てもフリント FL+フロンサイド SC は基腐病が少なく、収量が多かったとの意見があった。現地検討会（写真 2、3）を行い、新防除体系の周知に繋がった。



写真 2 実証ほの現地検討会（南さつま市）



写真 3 実証ほの現地検討会（南九州市）

- (3) 青果・加工用さつまいもの生産支援
青果・加工用さつまいもの生産支援として、部会ごとに栽培講習会や研修会を実施した。

南九州市では、丸いも対策実証ほを設置、畝間湛水を行うことで、無処理区と比較して丸いも発生率が 15%低くなった。

品種比較の実証ほでは、抵抗性品種「栗

かぐや」「あまはづき」が有望品種となった(写真4)。

飼料作物との交換耕作では飼料作物の後作として、減肥し3.2t/10aの収量であった。今後の課題は、貯蔵対策として生育後半の防除の徹底と、茎根腐細菌病が確認され、効果的な農薬等も不明なため、現状把握と研究機関と情報共有を密にする。



写真4 青果用甘藷の品種検討

(4) 農地利用の改善による露地野菜農家の生産、経営安定支援

ICTを活用した経営・生産管理システム活用農家5戸を対象に、作付計画作成支援や生育と土壌診断結果の記録に基づく改善提案を行い、経営・生産管理システム(図1, 2)を活用した栽培技術の改善支援を進めた。



図1 圃場管理システム画面



図2 システムを利用した土壌分析結果の記録状況

(5) 技術改善やスマート農業技術による生産の効率化支援

露地野菜の生産効率化のため、品目別にスマート農業技術の検討を行った。

キャベツではドローンによるチョウ目害虫の体系防除(写真5)を実証した結果、慣行と同等の防除効果を得られ、ドローンの有効性を確認できた。



写真5 キャベツドローン防除

また、青年農業者に地力チッソ分析を活用した施肥改善を提案(写真6)し、さつまいもで肥料削減の実証を行った結果、慣行施肥と同等以上の収量であり、施肥改善につなげることが出来た。



写真6 農業青年による地力チッソ分析作業

4 今後の課題

- (1) 基腐病対策技術(生育後半防除)のさらなる生産農家への周知
- (2) ブランド産地維持, 担い手の確保・育成に向け活動する必要
- (3) 茎根腐細菌病対策
- (4) さつまいも輪作体系の定着
- (5) 輪作を担う大規模露地農家の生産性向上

5 担当した普及職員(○はチーフ)

○木村, 橋口, 内門, 久富木, 井出